

# たじひのだより



松原市文化財情報誌

No.11



東新町遺跡調査区全景（左より西側調査区、南側調査区、東側調査区）



## 2世紀末～3世紀のムラ

民間の宅地造成工事に先駆け、平成23(2011)年10月～11月と平成24(2012)年1月～2月に発掘調査を行いました。

場所は東新町1丁目、東新町遺跡の範囲内になります。東新町遺跡は、西除川右岸の氾濫原に位置する縄文時代から中世の遺跡です。過去に東新町第二公園で行われた調査では、縄文時代から弥生時代の地震による液状化現象(噴砂)の跡、弥生時代中期の溝、古墳時代初めの方形周溝墓などが見つかっています。

今回の調査では、弥生時代の終わりから古墳時代の初め(2世紀末～3世紀前半)にかけてのムラ跡が見つかりました(表紙写真)。掘立柱建物や柵の柱穴(写真1)や井戸が複数あることから、調査地はムラの居住空間だったと考えられます。

井戸からは大量の土器が出土しています(写真4)。これは、井戸を埋める時に祭祀を行ったことによるものです。また、井戸底の近くから完形の土器が出土しています(写真5)。井戸を掘ってから役目を終えるまでにも祭祀が行われたのでしょうか。

今回の調査では、これらの他に方形周溝墓が見つかりました(写真2)。墓の大きさは墳丘の一边が約8mで、周りを幅約3mの溝が囲っています(写真3)。溝からは供えられた土器の破片が出土しています。棺は見つかっておらず、墳丘の残り半分と共に調査地の南側に存在すると考えられます。

墓は建物跡と同時期と思われる溝を潰して造られており、居住地を移転した後はムラの墓地として利用されたと考えられます。

今回の調査は当時のムラを姿を知る貴重なものとなりました。

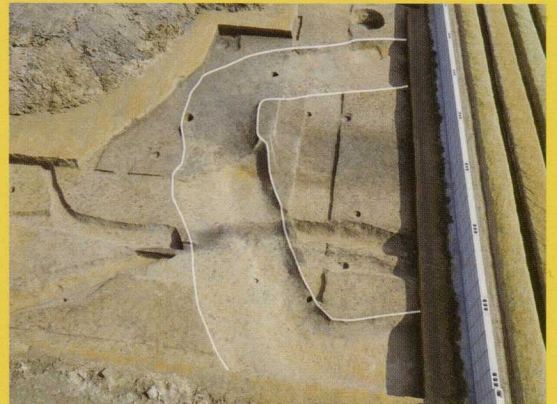


調査地の位置 (1:20000)

### photos



① 掘立柱建物 (西から)



② 方形周溝墓の全景 (西から)



③ 墳丘を囲む溝の堆積 (北から)

### photos



④ 土器が廃棄された井戸 (南から)



⑤ 井戸底より出土した土器





## 幕末 嘉永の巨大地震



今からおよそ160年前、アメリカのペリー提督が黒船を率いて浦賀に初めて来航した嘉永6(1853)年6月の1年後、日本列島は次々と巨大地震に襲われました。

本市にもこの地震に関する記録が僅かに残っています。狭山藩(大阪狭山市に陣屋・北条氏・1万1千石)領の西我堂村庄屋をつとめた西川家の日記(「嘉永七年寅年諸事覚日記」)には、嘉永7(1854)年6月15日、11月4日、さらに11月5日に巨大地震が連続して起きたこと、そして余震が頻発したことなどが詳しく書かれています。

なお、これらの巨大地震は現在、伊賀上野地震、東海地震、南海地震と呼ばれているものです。

日記を見ると、11月5日(新暦12月24日)の夜、西川家の人々は家屋の倒壊をおそれ、蕙をかけただけの急ごしらえの小屋で夜を明かしています。厳寒の中、肩を寄せ合って不安な夜を過ごしたことでしょう。その状景は、平成7年の阪神・淡路大震災や平成23年の東日本大震災と重なるように思われてなりません。

また、地震で同村の善正寺の本堂と庫裏が壊れてしまいました。日記には、11月4日夜、寺の御隠居が泊まりに来たことも記されています。その後、善正寺は翌安政2(1855)年4月25日に修復願を提出し、同3年に完成しました。(善正寺文書)

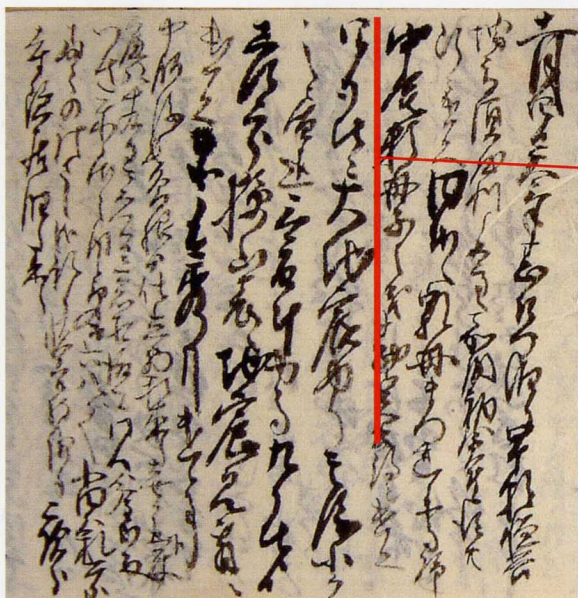
※記述中の月日は旧暦です。

西川家の日記にみる嘉永7(1854)年の地震記事

月日	出来事
6月15日	伊賀上野地震。震源：現三重県伊賀市北部、マグニチュード7.25、震度6~7 大地震発生。午前7時までに15回ほど揺れる。門で家族一緒に夜を明かす。八尾の被害や、大和国郡山(現奈良県大和郡山市)の被害甚大の状況が伝わる。
6月16日	午前5時ごろ少し揺れる(3回ほど)。午前7時ごろ大きな揺れ。けが人はいなかったため、「嘉例之御神事」を行う。昼ごろ11回、夜から翌朝にかけて5回揺れる。
6月17日	明け方揺れる。日中から夕方にかけて9回ほど、夜中に4回揺れる。
6月18日	午前7時ごろ揺れる。午前10時過ぎ、正午過ぎ、午前2時ごろに1回ずつ揺れる。
6月19日	午前2時ごろに1回揺れる。
6月20日	午前5時ごろ1回揺れる。
6月21日	午後8時ごろ大きく揺れる。
6月22日	朝方、小さい揺れが2回ある。
6月26日	朝、小さい揺れがある。
6月28日	午前2時ごろに小さい揺れがある。
7月4日	「地震拝」として氏神へ灯明献灯。
7月26日	午前2時過ぎ地震。
11月4日	東海地震。震源：駿河湾~遠州灘、マグニチュード8.4、震度7。大津波発生 午前10時半ごろ大地震発生。その後、昼まで3回ほど揺れる。西我堂村は狭山藩領であるため、狭山まで地震見舞に人を遣わす。夜、善正寺の御隠居が泊りに来る。
11月5日	南海地震。震源：紀伊半島~四国沖、マグニチュード8.4、震度6~7。大津波発生、大阪湾にも津波が押し寄せる 日没前に大地震発生。そのため、門に小屋を作り、一晩明かす。夜通し5回ほど揺れる。
11月6日	朝方、午前9時過ぎに小さい揺れがある。午前10時半ごろ村の様子を見に行く。午後1時半ごろ、午後7時ごろ小さい揺れがある。夜中に2回ほど揺れる。小屋で休む。
11月7日	昼食後、善正寺で集会。
11月8日	午前7時ごろ少し揺れる。善正寺の片付けの件で東我堂村と連絡をとる。
11月9日	夜4回揺れる。
12月1日	「地震悦」として氏神へ灯明献灯。
12月14日	伊勢太神楽がやってきて、伊勢方面の大地震の様子を聞く。居宅・土蔵などが大破したため、西我堂村の氏子達として寄付を依頼される。真夜中の12時ごろ揺れる。
12月15日	午前8時ごろに揺れる。

注1) 「嘉永七年寅年諸事覚日記」より作成。月日は旧暦。時刻は不定時法で換算した。また、この年の11月27日に年号が安政に改元される。

注2) ゴシック体は、寒川旭『揺れる大地—日本列島の地震史』(同朋舎出版、1997年)ほか参考。



四ツ比ニ大地震ゆり

「嘉永七年寅年諸事覚日記」(西川宏氏所蔵)11月4日部分。傍線「四ツ比ニ大地震ゆり(午前10時ごろ大地震で揺れた)」の部分が、ひときわ大きく記されています。



# 若林にあった相撲部屋

資料館こぼれ話

松原をはじめ河内地域は村相撲が盛んな土地柄でした。郷土資料館では、そのような村相撲を紹介した特別展を平成23年に開催しました。今回はその時の展示資料「河内十三組若乃森部屋連名板」(昭和21年10月旭形頭取時代作)についてもう少し詳しく紹介します。

連名板とは、相撲部屋の頭取(親方)や力士などの名前を書いた木札を並べて一覧にしたもので、頭取宅や稽古場に掲げられていました。

大和川流域を中心とした村相撲組合の河内十三組に所属する若乃森部屋の連名板には、内世話人(親方の補佐)や、先代頭取の名前もあり、活動拠点である若林神社(本市若林1丁目、大阪市平野区志紀長吉神社管理)に掲げられています。木札は取り外しができるようになっており、写真に矢印を付している木札には反対面に記載があり、その内、表面に「若林内」「頭取 若乃森勇治郎」と記載された木札の反対面には、それぞれ「長原内」「頭取 玉ノ浦浅太郎」とあり、これは長原出身の玉ノ浦が先に頭取を務め、後に若林出身の若乃森が頭取となったことを示しています。若林と長原の村相撲集団が一つの連名板を共有していることから同じ部屋として活動していたと考えられ、これについては柏原市國分を拠点とした若乃森部屋の給金帳(柏原市立歴史資料館所蔵)に記されている「玉ノ浦浅太郎」の名前の上に「長原」ではなく、「若林」とあることからそのことがうかがえ、若林地域の村相撲部屋の中には若林と長原の村相撲集団が所属していたことを示しています。

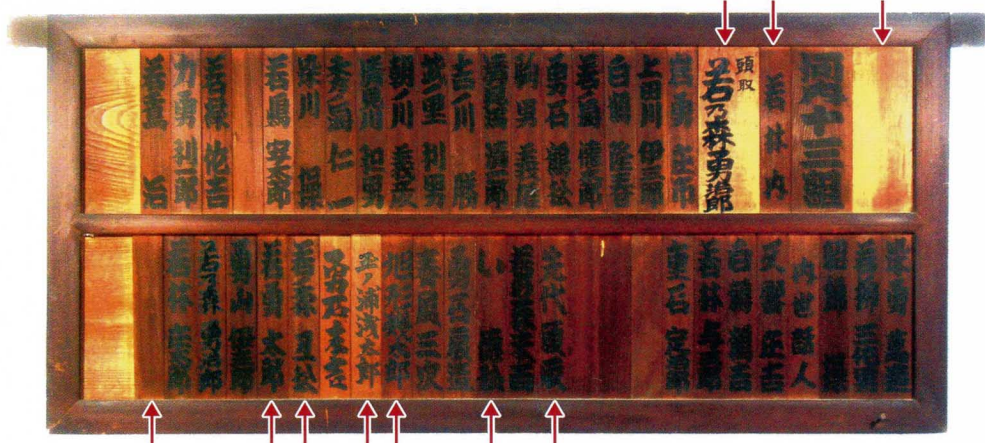
村相撲の資料は、力士墓や板番付などが中心です。こうした中、若林神社の連名板は、今は行われなくなった河内十三組の村相撲を今に伝える資料であり、松原における相撲文化を示す貴重な文化財といえます。

み き ふ  
て・いて・れて



●今年、30年ぶりとなる布忍神社本殿(府指定有形文化財)の屋根葺替えを記念し、(財)建築研究協会の藤本氏による現地説明と講演に40人が参加され、皆さん真新しい檜皮葺の屋根を目前に熱心に見学されました。●例年の松原中学校のフェスタは、郷土資料館と連携し文化財展示と古代衣装の貫頭衣着用と石臼ひきの体験学習。●第四中学校2年生の職業体験では遺物の洗浄作業などを行いました。●1月26日の文化財防火デーには、松原消防署による防火訓練を府指定天然記念物「いぶき」を所有する来迎寺で寺院の関係者、地元消防団の方々と一緒に放水訓練や初期消火訓練が行われ、皆さん真剣な面持ちで取り組まれました。

## 河内十三組若乃森部屋連名板



②反対面



①反対面



松原市内の文化財について  
お知りになりたい方へ

●ホームページ  
<http://www.city.matsubara.osaka.jp/10,1072,49,241.html>

●文化財の展示/図書の販売  
ふるさとびあプラザ1F・郷土資料館(財団法人松原市文化情報振興事業団)  
〒580-0016 大阪府松原市上田7丁目11番19号 ☎072-336-6800

●埋蔵文化財に関する手続き/文化財に関する相談/図書の販売など  
松原市役所5F・教育委員会地域教育振興課  
〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号 ☎072-334-1550(代) FAX 072-332-7720